

スーパーグローバル大学創成支援事業 中間評価結果

大学名	東京大学
整理番号	A04
構想名	東京大学グローバルキャンパスモデルの構築

◇スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会における評価

(総括評価) A	これまでの取組を継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
(コメント)	
<p>本構想は、アジア・非英語圏における世界トップクラスの研究型総合大学にふさわしいグローバルキャンパスを構築することを目的に、グローバル化時代における我が国ならではの総合大学の新しい世界展開モデルの創出を目指す取組である。</p> <p>構築実現のための具体的な展望として「東京大学ビジョン 2020」を掲げ、国際本部の下に発足させたグローバルキャンパス推進室を中心に、企画広報、教育推進、学生交流に関するプロジェクト等が部局を超えた全学的観点から展開されており、目標の達成に向けた着実な進展が認められる。</p> <p>具体的な取組としては、4ターム制の導入、双方向型の授業推進のための講義時間の延長、入学試験における国際バカロレアの活用、交換留学生制度の拡充による派遣日本人学生数の増大、国際研修科目の開講等が挙げられる。公開オンライン講座(MOOC)では、世界175の国・地域から約70,000人が受講し、海外一流大学との国際短期共同プログラムが参加した学生から高い評価を得ているほか、海外の一流大学との戦略的パートナーシップの枠組みを活用した共同研究の実施や、海外同窓会を通じた留学生確保等においても成果を挙げているものと評価出来る。</p> <p>一方で、外国人教職員等数や女性教員数、外国語力基準を満たす学生数、シラバスの英語化など、設定した数値目標に到達していない項目については、今後の改善策が必要である。また、教育面における様々なプログラムや施策について、その成果の分析を重ねることが望まれる。例えば、総体的にどの程度の学生が本構想に参画し、それらの学生が参画していない学生に比してどのような効果を得ているのか等を調査・把握することにより、我が国の高等教育のグローバル化の方向性に有益な示唆を与えることを期待したい。</p> <p>また、学部1年生を対象に開講されているアカデミック・ライティング・コース「Active Learning of English for Science Students (ALESS)」、「Active Learning of English for Students of the Arts (ALESA)」は非常に優れたプログラムである。学部1年生から2・3年生への進級に向けての繋ぎを意識したプログラムも数多く展開されてはいるものの、未だ小規模であるように見受けられることから、教養学部前期課程で身に付けた英語によるコミュニケーション能力、レポートライティング能力、討論能力等を学部3年生以降の専門教育において更に伸ばせるよう、プログラムを工夫することが望まれる。</p>	